

小中高連携英語教育推進校 小学校公開授業

「複式学級の英語指導 ～試行錯誤を重ねて～」

11月12日(水)、11月の中学校の公開に先駆け、小中高連携英語教育推進校の指定を受けた越ヶ浜小学校の授業公開がありました。小学5・6年生を教えるのは、5・6年の複式学級担任と中学校の英語教員の2人です。指定を受ける前の昨年度から、中学校の英語教員が小学校に乗り入れ授業を行っており、小中での英語教育のスムーズな接続を意識して取り組んでいます。

複式学級での英語指導については、小学校の担任と本校の英語教員で試行錯誤を重ね、授業開始時の合同スモールトーク、その後分かれての活動という形に落ち着きつつあります。この日の授業も、最初は5・6年生が合同でスモールトークを行いました。「萩市にあつたらいいと思うもの」というテーマで教師同士のモデル対話を聞いた後、ペアを変えて3回繰り返しました。



- ・モデル対話の中で小学校の先生ががんばって英語を使っている姿も、児童のチャレンジを後押しします。
- ・スモールトーク1回目の指導のポイントは、モデル対話を見せた後、いきなりやらせてみることにありました。

モデル対話の後、スモールトークをスタートさせましたが、児童たちはいきなり壁にぶち当たりました。「・・・何て質問するんだっけ？」こんな小さい声が漏れてきました。その様子を察知した担任の先生がすぐにストップをかけます。「何が困った?」「質問の仕方が分からなかった」このようなやりとりを確認して、中学校教諭に質問の仕方を教えてもらいます。「What do you want in Hagi?」このフレーズを繰り返し、2回目のスモールトークにチャレンジです。すると次はスムーズに言えました。3回目はペアを替えてさらにトークを繰り返しました。

義務教育課の指導主事からのお話にもありましたが、これからの英語の学びは「金魚鉢から大海へ」がキーワードです。つまり、「理解してから取り組む」のではなく、「取り組みながら学ぶ」ということです。正解をいきなり与えて受動的にリピートさせるより、自らの頭で考えさせて、学習者自身が必要を感じながら能動的に学習するという指導の手立てを講じることが大切になります。

スモールトーク後、自分の町や紹介したい県についての児童のプレゼンの様子についてのフィードバックを、ALTの先生からのビデオメッセージで確認しました。「話す時に相手を見る」などの態度・姿勢面だけでなく、「もう少し具体的に説明できるといいね」というアドバイスもいただきました。ジェスチャーやアイコンタクトなど、態度・姿勢面に指導が注がれがちな小学校の言語活動ですが、教科化された高学年ではこのような「言語面」の指導が大切であることも、新たに再認識することができました。



5・6年生に分かれてからの活動では、それぞれのiPadを活用したプレゼンを聞き合い、どうしたらもう少し詳しい内容になるかを考えました。5・6年生に共通したこの日のねらいは、自分の紹介文に「big」「beautiful」「delicious」などの形容詞を付け加え、より詳しく説明することでした。先ほどのALTのビデオメッセージにもその授業者のねらいが反映されており、その後の教師の見取りと子ども目線に降りた丁寧な指導により、児童たちは本時のねらいを達成しているように見えました。



昨年度からの小中のスムーズな接続を意識した指導の成果が、指定を受けた今年度、ゆっくりですが着実に現れ始めています。すべては日頃からのこうした「試行錯誤」の積み重ねです。この日は校内の授業研究も兼ねて行うことにより、英語科だけでなく、すべての教科の教員が、小中接続の重要性について考えることができたことにも、大きな意義がありました。次は中学校の公開授業、お楽しみに！